

全国月間火山概況（平成 24 年 3 月）

霧島山（新燃岳）では、今期間、噴火は発生しませんでした。新燃岳の北西数 km の地下深くのマグマだまりへの深部からのマグマの供給は停止しています。しかし、現在でも火口やその直下には高温の溶岩が溜まっており、新燃岳直下の火山性地震も続いていることから、突発的な噴火が発生する可能性があります。また、今後、深部からのマグマ供給が再開する可能性もあり、新燃岳へ多量のマグマが上昇すれば新たな噴火の可能性もあります。新燃岳火口から概ね 3 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。火口周辺警報（噴火警戒レベル 3、入山規制）が継続しています。

桜島では、昭和火口で爆発的噴火を含む活発な噴火活動が継続しました。昭和火口及び南岳山頂火口から概ね 2 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒が必要です。火口周辺警報（噴火警戒レベル 3、入山規制）が継続しています。

三宅島では、多量の火山ガスの放出が続いています。火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）が継続しています。

諏訪之瀬島では、6 日に爆発的噴火が発生するなど、噴火活動は活発に経過しました。火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）が継続しています。

硫黄島では、7 日に島西部の旧噴火口でごく小規模な水蒸気爆発が発生しました。火口周辺警報（火口周辺危険）が継続しています。

その他の火山の活動状況に特段の変化はありません。

4 月 8 日現在の各火山の噴火警報及び噴火予報等の発表状況は表 1 のとおりです。

表 1 4 月 8 日現在の噴火警報及び噴火予報等の発表状況

警報・予報	噴火警戒レベル 及びキーワード	該当火山
火口周辺警報	レベル 3（入山規制）	霧島山（新燃岳）、桜島
	レベル 2（火口周辺規制）	三宅島、薩摩硫黄島、諏訪之瀬島
	火口周辺危険	硫黄島
噴火警報及び火山現象に関する海上警報	周辺海域警戒	福德岡ノ場
噴火予報	レベル 1（平常）	雌阿寒岳、十勝岳、樽前山、有珠山、北海道駒ヶ岳、岩手山、秋田駒ヶ岳、吾妻山、安達太良山、磐梯山、那須岳、草津白根山、浅間山、新潟焼山、焼岳、御嶽山、富士山、箱根山、伊豆東部火山群、伊豆大島、九重山、阿蘇山、雲仙岳、霧島山（御鉢）、口永良部島、
	平常	知床硫黄山、羅臼岳、天頂山、摩周、アトサヌブリ、雄阿寒岳、丸山、大雪山、利尻山、恵庭岳、倶多楽、羊蹄山、ニセコ、恵山、渡島大島、恐山、岩木山、八甲田山、十和田、秋田焼山、八幡平、鳥海山、栗駒山、鳴子、肘折、蔵王山、沼沢、燧ヶ岳、高原山、日光白根山、赤城山、榛名山、横岳、妙高山、弥陀ヶ原、アカンダナ山、乗鞍岳、白山、利島、新島、神津島、御蔵島、八丈島、青ヶ島、ペヨネース列岩、須美寿島、伊豆鳥島、孺婦岩、西之島、海形海山、海德海山、噴火浅根、北福德堆、南日吉海山、日光海山、三瓶山、阿武火山群、鶴見岳・伽藍岳、由布岳、福江火山群、米丸・住吉池、若草、池田・山川、開聞岳、口之島、中之島、硫黄鳥島、西表島北北東海底火山、茂世路岳、散布山、指臼岳、小田萌山、択捉焼山、択捉阿登佐岳、ベルタルベ山、ルルイ岳、爺爺岳、羅臼山、泊山



図1 噴火警報発表中の火山

【各火山の活動状況及び予報警報事項】

全国の主な火山の活動状況及び予報警報事項は以下のとおりです。その他の火山については、火山活動に特段の変化はなく、予報事項に変更はありません。

恵山 【噴火予報（平常）】

Y火口の噴気の高さは火口縁上概ね100m以下で、噴気活動は低調に経過しました。16日に北海道開発局、23日に第一管区海上保安本部の協力により上空からの観測を実施しました。目視及び赤外熱映像装置による観測では、各火口の状況に特段の変化はありませんでした。

30日23時22分頃に振幅が小さく継続時間の短い火山性微動が発生しました。微動発生直後から31日未明にかけて振幅の小さな火山性地震が一時的に増加しました。微動発生時の噴気状況は雲のため不明でしたが、空振計及び地殻変動データに特段の変化はありませんでした。火山性微動発生後の状況確認のため、4月2日（期間外）に現地調査を実施しました。X、Y火口の噴気や火口の状況に特段の変化はありませんでした。

GPS連続観測では、火山活動によると考えられる地殻変動は認められませんでした。

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

草津白根山 【噴火予報(噴火警戒レベル1、平常)】

8日に実施した現地調査では、水釜火口北側斜面及び北側噴気地帯で引き続き高温域が確認されましたが、前回(2011年6月27日)と比べ特段の変化は認められませんでした。奥山田(湯釜の北約1.5km)に設置してある遠望カメラでは今期間、悪天候や機器の障害のため湯釜北側噴気地帯等の噴気の状況は不明の期間が多くありますが、それ以外の期間は、湯釜北側噴気地帯の噴気孔からごく弱い噴気が時々観測されました。また、逢ノ峰山頂(湯釜の南約1km)に設置してある遠望カメラでは、悪天候のため不明の期間がありますが、それ以外の期間は、噴気は認められませんでした。湯釜火口内に設置してある東京工業大学のカメラでは、悪天候のため不明の期間がありますが、それ以外の期間は、火口内に噴気は認められませんでした。

東京工業大学の観測によると、湯釜火口内北東部の噴気地帯の地中温度は、2009年5月に急激に上昇

し、その後も時々一時的な温度低下がみられるものの高温の状態が継続しています。

今期間、湯釜の南付近を震源とする振幅の小さな火山性地震の一時的な増加が時々みられました。火山性微動は観測されませんでした。

GPS 連続観測では、火山活動によるとみられる変動は認められませんでした。

4 月 1 日 23 時頃から 2 日 2 時頃にかけて、湯釜の南付近が震源と推定される振幅の小さな火山性地震が多発しましたが、その後は収まっています。火山性微動は観測されませんでした。この火山性地震増加時に、奥山田や逢ノ峰山頂の遠望カメラでは、噴気等に特段の変化は認められませんでした。また、東京工業大学の湯釜火口内に設置してあるカメラでは、夜間のため詳細は不明です。今回の地震活動により傾斜計や GPS 連測観測では、特段の変化は認められませんでした。

山頂火口から概ね 500m の範囲では、火山灰の噴出等に警戒が必要です。また、ところどころで火山ガスの噴出が見られ、周辺の窪地や谷などでは滞留した火山ガスが高濃度になることがありますので、注意が必要です。

三宅島 【火口周辺警報(噴火警戒レベル 2、火口周辺規制)】

山頂火口からの噴煙高度は、火口縁上 100～300m で経過しました。15 日及び 22 日に実施した現地調査では、二酸化硫黄の平均放出量は、一日あたりそれぞれ 900 トン、600 トン（前月 2 月 10 日、900 トン）で、やや多量の火山ガス放出が続いています。三宅村によると、山麓では時々高濃度の二酸化硫黄が観測されています。

7 日に陸上自衛隊の協力により上空からの観測を実施しました。赤外熱映像装置による地表面温度分布観測では、山頂火口南側内壁に位置する主火孔及びその周辺で引き続き高温領域が認められ、前回（2010 年 1 月）と比べてその状況に特段の変化は認められませんでした。全磁力連続観測では、火山体内部の熱の状況に大きな変化は見られませんでした。

火山性地震は少ない状態が続いています。震源は山頂火口直下に分布しており、これまでと比べて特に変化はありませんでした。火山性微動は観測されませんでした。

GPS 連続観測によると、2000 年以降、山体浅部の収縮を示す地殻変動は徐々に小さくなりながら現在も継続しています。島の南北を挟む基線では、2006 年頃から深部の膨張を示す伸びの傾向がみられています。

火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されますので、山頂火口周辺（雄山環状線内側）では噴火に対する警戒が必要です。また、火山ガス予報で火山ガスの濃度が高くなる可能性があるとして予想される地域では火山ガスに対する警戒が必要です。

硫黄島 【火口周辺警報(火口周辺危険)】

【旧噴火口（通称：ミリオンダラーホール）】

7 日から 9 日にかけて海上自衛隊の協力により硫黄島の現地調査に赴いたところ、7 日 08 時 20 分頃に島西部の旧噴火口で、泥噴出が発生したとの報告が海上自衛隊硫黄島航空基地隊からあり、急遽、当該旧噴火口の現地調査を実施しました。13 時 25 分頃まで、ごく小規模な水蒸気爆発に伴う断続的な噴気や泥・小さな噴石等の噴出を確認しましたが、その後は収まりました。噴出口は前回（2012 年 2 月上旬）と同じ場所で、そこから北西方向へ最大 100m 程度の距離まで泥が飛散しているのを確認しました。噴気は最大で約 20m の高さまで上がり、小さな噴石等は 10 数 m の高さまで上がった後、約 20m 四方へ飛散しました。また、8 日朝に新たな泥噴出の痕跡が確認され、噴出口は泥で満たされており、壁面付近に高温域が認められました。最も北側に位置する噴出口から数 m 離れた場所の温度は、前回（2012 年 2 月 14 日～15 日）より数℃から 10 数℃高い（約 100℃）状態でした。前回、近傍に設置した地中温度観測機器（温度ロガーセンサー）による観測では、原因不明の温度低下が数回みられましたが、長期的には上昇傾向で熱電対温度計による温度変化と整合します。この地中温度観測は継続中です。

【阿蘇台陥没孔】

島西部の阿蘇台陥没孔では、前回（2011 年 11 月 16～18 日）の観測時と比べて、孔内の水位が上昇していることを確認しました。赤外熱映像装置による孔底の観測では、泥水の温度は前回同様、約 100℃と推定され、間欠的な熱水の噴出を確認しました。泥水の噴出に伴って立ち上る噴気は前回より多量で、孔の上端から最大約 20m の高さになり、弱い腐卵臭を伴っていました。

【東山噴気・地熱地帯】

東山噴気・地熱地帯では、前回（2011 年 11 月 16～18 日）同様、高温域を確認しました。地表面から約 10 cm の表層地中温度を測定したところ約 100℃と、前回と変化はありませんでしたが、噴気の量は多

く、周辺では硫黄臭を確認しました。

【その他の地域】

金剛岩、硫黄ヶ丘及び摺鉢山など、その他の地域では、噴気の状態及び地熱等の状況は、前回（2011年11月）の現地調査で確認された熱活動と特段の変化は認められませんでした。

【遠望カメラによる状況】

阿蘇台東（阿蘇台陥没孔の東北東約 900m）に設置してある遠望カメラでは、島西部の阿蘇台陥没孔からの噴気は少ない状態で、噴気の高さは 10～80m で経過しました。

また、島北西部の井戸ヶ浜では、噴気は認められませんでした。

地震活動は 2011 年 2 月末頃から、比較的活発な状態が続いています。高周波地震の他、やや低周波地震や低周波地震の活動もやや活発です。7 日のごく小規模な水蒸気爆発に伴い、11 時 53 分頃から 13 時 25 分頃まで火山性微動が 1 回（継続時間：約 90 分）観測されました。

国土地理院の GPS 観測結果では、2006 年 8 月に始まった島全体の隆起を示す地殻変動は、2011 年 1 月末頃から隆起速度が増加していましたが、同年 12 月下旬頃から隆起傾向はやや鈍化しています。また、島の南部で大きな南向きの変動がみられます。

火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されますので、これまで小規模な噴火が発生した島東部の海岸付近、島西部及び南東沖（翁浜沖）では噴火に対する警戒が必要です。

福岡ノ場 【噴火警報(周辺海域警戒) 及び火山現象に関する海上警報】

海上保安庁海洋情報部、第三管区海上保安本部、海上自衛隊及び気象庁によるこれまでの観測によると、福岡ノ場付近の海面には長期にわたり火山活動によるとみられる変色水等が確認されています。今後も小規模な海底噴火が発生すると予想されますので、周辺海域では噴火に対する警戒が必要です。

霧島山（新燃岳）【火口周辺警報(噴火警戒レベル 3、入山規制)】

新燃岳では、今期間、噴火は発生しませんでした（最後の爆発的噴火は 2011 年 3 月 1 日、噴火は 2011 年 9 月 7 日）。噴煙活動に特段の変化はなく、白色の噴煙が火口縁上概ね 50m（最高高度は 400m）の高さで経過しました。

7 日に航空自衛隊航空救難団芦屋救難隊、13 日に宮崎県の協力を得て実施した上空からの調査では、火口内に蓄積された溶岩の大きさ（直径約 600m）や形状、また火口内の噴気の状態に特段の変化がないことを確認しました。主に溶岩の北側及び東側から白色の噴煙が上がっており、二酸化硫黄を含む青白色のガスも一部確認しました。赤外線映像装置による観測では、火口内及びその周辺の地表面温度分布に大きな変化はなく、火口内に蓄積された溶岩の縁辺が比較的高温な状態でした。また、西側斜面の割れ目では、噴気は認められませんでした。一部やや温度の高い部分が引き続き認められました。

火山性地震はやや多い状態が続いています。月回数は 368 回（2 月：611 回）でした。震源はこれまでと同様に、主に新燃岳付近の海拔下 0～2 km 付近に分布しました。火山性微動は今期間観測されませんでした（2 月：1 回）。

国土地理院の広域的な GPS 観測結果では、新燃岳の北西地下深くのマグマだまりへのマグマの供給に伴う地盤の伸びの傾向は、2011 年 12 月頃から鈍化し、その後停滞しています。新燃岳周辺の GPS 連続観測及び傾斜計では、火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

22 日に実施した現地調査では、二酸化硫黄の平均放出量は一日あたり 100 トン（2 月：200 トン）と少ない状態でした。

新燃岳火口から概ね 3 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。風下側では降灰及び遠方でも風に流されて降る小さな噴石（火山れき）に注意が必要です。これまでの噴火では、風に流されて直径 4 cm 程度の小さな噴石（火山れき）が新燃岳火口から 10km を超えて降りました。また、爆発的噴火に伴う大きな空振に注意が必要です。噴火警報等及び霧島山上空の風情報に注意してください。降雨時には泥流や土石流に警戒が必要です。降雨に関する情報に注意してください。

桜島 【火口周辺警報(噴火警戒レベル 3、入山規制)】

昭和火口では、活発な噴火活動が継続しました。噴火の回数は 128 回（2 月：103 回）でそのうち爆発的噴火の回数は 112 回（1 月：93 回）でした。12 日 15 時 07 分の爆発的噴火では、大きな噴石が 2 合目（昭和火口から 2 km 付近）まで達しました。また、大きな噴石が 3 合目（昭和火口から 1,300m～1,800m）まで達した爆発的噴火は、3 回発生しました。噴煙の最高高度は、火口縁上 2,500m でした。また、ごく小規模な火砕流が、22 日 00 時 55 分に発生し、東へ約 300m 流下しました。火砕流の発生は、

2011年10月26日以来です。同火口では、夜間に高感度カメラで明瞭に見える火映を時々観測しました。

南岳山頂火口では、時々ごく小規模な噴火が発生しました。噴煙の最高高度は、火口縁上 300m でした。同火口では 22 日に夜間に高感度カメラで確認できる程度の微弱な火映を観測しました。同火口で火映が観測されたのは、2009 年 5 月 19 日以来です。

火山性地震は、少ない状態で経過しました。月回数は 892 回（2 月：593 回）でした。震源は、南岳直下の海拔下約 1～3 km と桜島東部の海拔下約 2 km に分布しました。噴火に伴う火山性微動が発生しており、月回数は 480 回（2 月：192 回）で、継続時間の月合計は 92 時間 46 分（2 月：22 時間 32 分）と前月と比べて増加しました。

14、28 日に実施した現地調査では、二酸化硫黄の平均放出量は一日あたり 2,400 トン（2 月：2,300～2,900 トン）と引き続き多い状態でした。

有村観測坑道の水管傾斜計（大隅河川国道事務所設置）では、2011 年 11 月頃から山体がわずかに隆起する傾向が続いていましたが、2012 年 2 月以降、停滞しています。GPS 連続観測では、2011 年 9 月頃からわずかな伸びの傾向が続いています。また、国土地理院の GPS 観測結果では、始良カルデラ（鹿児島湾奥部）深部の膨張による長期的な伸びの傾向がみられます。

鹿児島地方気象台での観測では、月合計 12g/m²（降灰日数 4 日）の降灰を観測しました。鹿児島県が実施している降灰の観測データから推定した火山灰の 2 月の総噴出量は 52 万トンで、1 月（51 万トン）と同程度でした。

昭和火口及び南岳山頂火口から概ね 2 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒が必要です。風下側では降灰及び遠方でも風に流されて降る小さな噴石（火山れき）に注意が必要です。降雨時には土石流に注意が必要です。

薩摩硫黄島【火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）】

硫黄岳山頂火口の噴煙活動はやや高い状態で経過しました。白色の噴煙が、最高で火口縁上 400m まで上がりました。

火山性地震の月回数は 201 回（2 月：189 回）と少ない状態で経過しました。

振幅が小さく継続時間の短い火山性微動を 1 回（2 月：なし）観測しました。

GPS 連続観測では、火山活動に伴う特段の変化は認められませんでした。

火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね 1 km の範囲では噴火に対する警戒が必要です。風下側では降灰及び遠方でも風に流されて降る小さな噴石に注意が必要です。

諏訪之瀬島【火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）】

御岳火口では、6 日に爆発的噴火が 1 回発生しました（2 月：1 回）。

噴煙の最高高度は火口縁上 200m（2 月：400m）でした。

同火口では夜間に高感度カメラで確認できる程度の微弱な火映を時々観測しました。

火山性地震は少ない状態で経過しました。

火山性微動は、継続時間の月合計が 17 分（2 月：58 分）と減少しました。

GPS 連続観測では、火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

今後も火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。風下側では降灰及び遠方でも風に流されて降る小さな噴石に注意が必要です。

（火山の順は活火山総覧（第 3 版）による）

資料 1 全国の火山の噴火警報及び噴火予報の発表状況のまとめ（平成 24 年 4 月 8 日現在）

（１）主な活火山

	火山名	噴火警報及び噴火予報の発表状況	噴火警報及び噴火予報の発表履歴
北海道地方	アトサヌプリ	噴火予報（平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常）
	雌阿寒岳	噴火予報（レベル 1、平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常） 2008年 9 月29 日 火口周辺警報（火口周辺危険） 2008年10月17 日 噴火予報（平常） 2008年11月17 日 火口周辺警報（火口周辺危険） 2008年12月16 日 火口周辺警報（レベル 2、火口周辺規制） 2009年 4 月10 日 噴火予報（レベル 1、平常）
	大雪山	噴火予報（平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常）
	十勝岳	噴火予報（レベル 1、平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常） 2008年12月16 日 噴火予報（レベル 1、平常）
	樽前山	噴火予報（レベル 1、平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（レベル 1、平常）
	倶多楽	噴火予報（平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常）
	有珠山	噴火予報（レベル 1、平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常） 2008年 6 月 9 日 噴火予報（レベル 1、平常）
	北海道駒ヶ岳	噴火予報（レベル 1、平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（レベル 1、平常）
	恵山	噴火予報（平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常）
東北地方	岩木山	噴火予報（平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常）
	秋田焼山	噴火予報（平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常）
	岩手山	噴火予報（レベル 1、平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（レベル 1、平常）
	秋田駒ヶ岳	噴火予報（レベル 1、平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常） 2009年10月27 日 噴火予報（レベル 1、平常）
	鳥海山	噴火予報（平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常）
	栗駒山	噴火予報（平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常）
	蔵王山	噴火予報（平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常）
	吾妻山	噴火予報（レベル 1、平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（レベル 1、平常）
	安達太良山	噴火予報（レベル 1、平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常） 2009年 3 月31 日 噴火予報（レベル 1、平常）
	磐梯山	噴火予報（レベル 1、平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常） 2009年 3 月31 日 噴火予報（レベル 1、平常）
関東・中部地方	那須岳	噴火予報（レベル 1、平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常） 2009年 3 月31 日 噴火予報（レベル 1、平常）
	日光白根山	噴火予報（平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常）
	草津白根山	噴火予報（レベル 1、平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（レベル 1、平常） 2009年 4 月10 日 噴火予報（レベル 1、平常）切替
	浅間山	噴火予報（レベル 1、平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（レベル 1、平常） 2008年 8 月 8 日 火口周辺警報（レベル 2、火口周辺規制） 2009年 2 月 1 日 火口周辺警報（レベル 3、入山規制） 2009年 2 月 3 日 火口周辺警報（レベル 3、入山規制）切替 2009年 4 月 7 日 火口周辺警報（レベル 2、火口周辺規制） 2010年 4 月15 日 噴火予報（レベル 1、平常）
	新潟焼山	噴火予報（レベル 1、平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常） 2011年 3 月31 日 噴火予報（レベル 1、平常）
	焼岳	噴火予報（レベル 1、平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常） 2011年 3 月31 日 噴火予報（レベル 1、平常）
	乗鞍岳	噴火予報（平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常）
	御嶽山	噴火予報（レベル 1、平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常） 2008年 3 月31 日 噴火予報（レベル 1、平常）
	白山	噴火予報（平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常）
	富士山	噴火予報（レベル 1、平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（レベル 1、平常）
	箱根山	噴火予報（レベル 1、平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常） 2009年 3 月31 日 噴火予報（レベル 1、平常）
	伊豆東部火山群	噴火予報（レベル 1、平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常） 2011年 3 月31 日 噴火予報（レベル 1、平常）

	火山名	噴火警報及び噴火予報の発表状況	噴火警報及び噴火予報の発表履歴
伊豆・小笠原諸島	伊豆大島	噴火予報（レベル１、平常）	2007年12月１日 噴火予報（レベル１、平常）
	新島	噴火予報（平常）	2007年12月１日 噴火予報（平常）
	神津島	噴火予報（平常）	2007年12月１日 噴火予報（平常）
	三宅島	火口周辺警報 （レベル２、火口周辺規制）	2007年12月１日 火口周辺警報（火口周辺危険） 2008年３月31日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制）
	八丈島	噴火予報（平常）	2007年12月１日 噴火予報（平常）
	青ヶ島	噴火予報（平常）	2007年12月１日 噴火予報（平常）
	硫黄島	火口周辺警報（火口周辺危険）	2007年12月１日 火口周辺警報（火口周辺危険）
	福徳岡ノ場	噴火警報（周辺海域警戒）	2007年12月１日 噴火警報（周辺海域警戒）
九州地方・南西諸島	鶴見岳・伽藍岳	噴火予報（平常）	2007年12月１日 噴火予報（平常）
	九重山	噴火予報（レベル１、平常）	2007年12月１日 噴火予報（レベル１、平常）
	阿蘇山	噴火予報 （レベル１、平常）	2007年12月１日 噴火予報（レベル１、平常） 2011年５月16日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2011年６月20日 噴火予報（レベル１、平常）
	雲仙岳	噴火予報（レベル１、平常）	2007年12月１日 噴火予報（レベル１、平常）
	霧島山 （新燃岳）	火口周辺警報 （レベル３、入山規制）	2007年12月１日 噴火予報（レベル１、平常） 2008年８月22日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2008年10月29日 噴火予報（レベル１、平常） 2010年３月30日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2010年４月16日 噴火予報（レベル１、平常） 2010年５月６日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2011年１月26日 火口周辺警報（レベル３、入山規制） 2011年１月31日 火口周辺警報（レベル３、入山規制）切替 2011年２月１日 火口周辺警報（レベル３、入山規制）切替 2011年３月22日 火口周辺警報（レベル３、入山規制）切替
	霧島山（御鉢）	噴火予報（レベル１、平常）	2007年12月１日 噴火予報（レベル１、平常）
	桜島	火口周辺警報 （レベル３、入山規制）	2007年12月１日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2008年２月３日 火口周辺警報（レベル３、入山規制） 2008年２月20日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2008年４月８日 火口周辺警報（レベル３、入山規制） 2008年７月14日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2008年７月28日 火口周辺警報（レベル３、入山規制） 2008年８月28日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2009年２月２日 火口周辺警報（レベル３、入山規制） 2009年２月19日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2009年３月２日 火口周辺警報（レベル３、入山規制） 2009年３月10日 火口周辺警報（レベル３、入山規制）切替 2009年４月24日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2009年７月19日 火口周辺警報（レベル３、入山規制） 2010年９月30日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2010年10月13日 火口周辺警報（レベル３、入山規制）
	薩摩硫黄島	火口周辺警報 （レベル２、火口周辺規制）	2007年12月１日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制）
	口永良部島	噴火予報（レベル１、平常）	2007年12月１日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2008年１月25日 噴火予報（レベル１、平常） 2008年９月４日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2008年10月27日 火口周辺警報（レベル３、入山規制） 2009年３月18日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2009年８月４日 噴火予報（レベル１、平常） 2009年９月27日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2009年10月30日 噴火予報（レベル１、平常） 2011年12月15日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2012年１月20日 噴火予報（レベル１、平常）
	諏訪之瀬島	火口周辺警報 （レベル２、火口周辺規制）	2007年12月１日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制）

注）噴火警報及び噴火予報の発表履歴欄には、平成 19 年 12 月 1 日の噴火警報及び噴火予報の発表と噴火警戒レベルの運用開始からの経過を示す。
この表では、主な活火山として、警報を発表している、または常時観測を行っている火山を示している。また、ここで示すレベルは噴火警戒レベルである。

(2) その他の活火山

以下の活火山では平成 19 年(2007 年)12 月 1 日に噴火予報(平常)を発表し、その後、火山活動に特段の変化はなく、予報事項に変更はありません。

	火 山 名
北海道地方	知床硫黄山、羅臼岳、天頂山*、摩周、雄阿寒岳*、丸山、利尻山、恵庭岳、羊蹄山、ニセコ、渡島大島、茂世路岳、散布山、指臼岳、小田萌山、択捉焼山、択捉阿登佐岳、ベルタルベ山、ルルイ岳、爺爺岳、羅臼山、泊山
東北地方	恐山、八甲田山、十和田、八幡平、鳴子、肘折、沼沢、燧ヶ岳
関東・中部地方	高原山、赤城山、榛名山、横岳、妙高山、弥陀ヶ原、アカシダナ山
伊豆・小笠原諸島	利島、御蔵島、ペヨネース列岩、須美寿島、伊豆鳥島、孀婦岩、西之島、海形海山、海徳海山、噴火浅根、北福德堆、南日吉海山、日光海山
中国・九州地方 及び南西諸島	三瓶山、阿武火山群、由布岳、福江火山群、米丸・住吉池、若尊、池田・山川、開聞岳、口之島、中之島、硫黄鳥島、西表島北北東海底火山

* 天頂山と雄阿寒岳は、平成 23 年 6 月 7 日に活火山として選定され、噴火予報(平常)を発表した。